今年も毎月、作業をしてきました
―「平和公園」の草刈り、樹木剪定など―

厳しい残暑の中、草刈り　9月

9月11日（日）は、日射しもあり気温は高かったのですが、涼しい北東からの風が吹き、作業のしやすい一日になりました。5人の参加者は、日本山妙法寺の石塔の建っている区画と進入路の入り口部分の草刈りを行いました。真夏の暑さにもかかわらず雑草は丈を伸ばしていたため、少し苦労しながら刈り払い機で刈り取りました。熱中症を避け、疲労を残さないために、草はまだまだ残っていますが、作業は午前中で終了しました。

涼しい秋、草刈りは完了　10月

10月9日（日）は北東の風が吹く涼しい日で、作業にはちょうど良い天気でした。7人の参加者で、入り口から最も手前にある日本山妙法寺の道場がある区域と進入路の草刈りを行いました。午前中で作業を終えることができました。これで,今年の草刈り作業は終了し、来年の初夏までは草の心配が無いと思います。草刈り作業に参加していただいたみなさん、大変ありがとうございました。

樹木の伐採と剪定をしています　11月

11月19日（土）は、風も弱く“小春日和”の暖かい一日となりました。参加者は今までの最多記録に並ぶ13人でした。フェンス際に植えられていて、基地側に枝が張りだしてしまっている樹木の伐採作業を行いました。先人が植樹し大切に育て、百里基地反対運動を見守ってくれている木々を伐採するのは断腸の思いですが、基地のフェンスを壊さないために伐採作業を行いました。フェンス際の大きな木を伐採するのは難しいことですが、参加者の知恵と力で無事、安全に3本の木を伐ることができました。お昼は、久しぶりに美味しいバーベキューで交流しました。

12月17日（土）に平和公園の作業を行います

9時30分に平和公園集合　参加可能な方は、080-9457-6381まで。

百里の会

自衛隊は憲法違反

第24号　2022年11月30日

一般社団法人
百里の会
茨城県水戸市見川 5-127-281
Tel 080-9457-6381
E-mail hyakurip@gmail.com
HP　https://hyakurip.web.fc2.com

基地を見下ろす大看板
自衛隊は憲法違反 は
５０年間、何を見てきたか その6

１９　百里農民は飲むほどに疑問はつづく

「新しい憲法が1947年5月3日に実施されてよ、3年たらずで警察予備隊（自衛隊の前身）ができて日本は再軍備されちゃったんだよな」

「聞いた話だとよ、48年3月からマッカーサーとアメリカの政府役人は日本の再軍備を話し合っていたんだってよ。せっかく戦争はダメだといういい憲法が出来たのにな。何故なんだ」

「聞いた話なんだがよ、新憲法が47年5月 3 日に施行されて、一年もしない内にマッカーサーとアメリカ政府の役人が日本の再軍備について話し合ってたんだとよ。そして、50年6月25日に朝鮮戦争が勃発すると、マッカーサーは7月8日に吉田内閣に警察予備隊（自衛隊の前身・再軍備）をつくれと命令し、吉田は8月10日に国会にもかけずにつくっちゃった。これこそ憲法違反だよな。いくら占領中と言ったっておかしいよな。このマッカーサーの大変身をどう考えたらいいんだ。よくわかんねえよな」「米ソ冷戦が始まったからなんだってよ」

もし、日本の憲法のようにそれぞれの国が「戦力はもたない。戦争はしない」という事になれば、世界から戦争はなくなります。トマス・モアの『ユートピア』（1516年）、理想郷の実現です。しかしこのようなことは現実には程遠いものです。では、憲法9条は意味がないという事でしょうか。いやそうではないでしょう。戦力不保持・戦争の放棄は、人類の戦争と平和の繰り返す歴史の中にあって平和に生きたいという人間の本性・普遍性に根ざしています。それ故、誰も反対する事が出来ない性格を持っています。それどころか戦火の中にある人びとは、戦後の日本人と同じように二度と戦争はダメだという平和のこころを強く持っています。9条はそのような人びとにとって言わば輝ける星の存在となっています。

不当・不合理・不条理という歴史の現実を改革していく時に、理想は欠かすことができません。歴史の前進は常に理想の実現に燃える時です。現実に溺れては歴史の歯車を前進させることはできません。

少し長い船出の旅になりますが、日本国憲法のつくられた歴史的背景を追ってみたいと思います。

２０　第二次大戦の惨禍から創られた日本国憲法

人間の歴史は戦争と平和の繰り返し、戦争の反省から少しづつ平和を築いてきました。特に20世紀前半の第一次・第二次大戦のように一国どうしの戦争でなく両陣営にわかれて世界各国を巻き込み、戦争の惨禍が一般国民にも及ぶと平和に対する考え方も大きく変わってきました。第二次世界大戦終了と同時に国際連合が結成され、戦後の国際社会の規範がつくられました。そして日本では世界ではじめて、「戦力不保持・戦争の放棄」の憲法9条がつくられました。日本国憲法がどのように創られたかを学ぶとき、二つの歴史的背景を検討する必要があるように思います。ひとつは、二度にわたる世界大戦の性格、ふたつには同じ敗戦国のイタリア、ドイツとの敗戦・占領の比較から日本占領の特殊性を見つけ出すことにあります。はじめに、世界大戦の性格から見ていきたいと思います。

２１　産業革命の功罪

近代国家・文明を築いたヨーロッパで何故、世界を巻き込んだ第一次大戦が起こったのか、そしてわずか20年の後にはそれに倍する惨禍をもたらした第二次大戦がどのようにして引き起こされたのか。経済力と軍事力で他国を政治大国的に支配しようと、強国同士が覇権を争って戦争を繰り広げたのが19世紀後半から20世紀の帝国主義と言われる時代です。この時代の戦争は列強国による植民地争奪戦を抜きにしては考えられません。

科学技術の発展による19世紀の産業革命は“鉄の時代”を招きました。それは生産用具の機械化、大工場制による生産量の飛躍的増大です。工場の機械化のみならず鉄道・自動車・陸橋・港湾施設などほとんどのものに鉄材が使われるようになりました。産業革命で先進国になろうとする国々はまず鉄鉱石を求め、それを製鉄するための石炭・石油の確保、そして商品生産の各種原料・資材を求めて世界に進出していきます。この

資本家の生命力でもある利潤追求と資本家どうしの競争は世界に何をもたらしたのか。

産業革命は資本主義社会を飛躍的に発展させ人々の生活を向上させました。同時に、それは国内では労働者・勤労国民との階級的矛盾を生み出し、また国家間では植民地争奪の帝国主義戦争となっていきます。この資本主義社会の階級矛盾を理論的に解明したのがマルクスの『資本論』であり、さらに資本主義が独占段階となり帝国主義戦争の時代を分析したのが、レーニンの『帝国主義論』でした。

２２　数か国の列強が世界を支配する

20世紀はじめの段階で植民地獲得の争奪戦を繰り広げてきたのはヨーロッパの強国のイギリス・フランス・ドイツ・イタリア・ロシアであり、アジアでは日本でした。アメリカはヨーロッパと同じくらいの面積を持ち、石油・鉱物資源が豊富で、問題は労働力人口でしたが、アフリカからの黒人奴隷でまかなってきました。

また、この当時、アフリカにはエチオピアとリベリアしか独立国はなかったのです。アジアでも独立国は日本とタイと中国のみです。中国は独立国といっても列強国の半植民地でした。

わずか10か国にもみたない帝国主義国がアジア・アフリカの広大な地域に資源・原料・資材を求め、宗主国（植民地所有国）どうしが植民地支配の争奪戦を繰り広げたのです。植民地支配下では経済的・政治的圧迫はもちろん、人権がまったく認められませんでした。これらの国が広大なアジア・アフリカの地域に植民地を求め軍事力でお互いに争奪戦を繰り広げ、先進文明国と言われる国々が文明を破壊する戦争に世界を巻き込んだのです。近代文明を築いたヨーロッパ先進国がみずから世界を二度も戦争に巻き込み、文明を破壊するという歴史の歯車を逆回転させたのです。

２３　日本の侵略戦争と日本国憲法

具体的に日本の場合を見てみましょう。1868年に明治維新となって近代化に向かった日本は、早くも産業革命を実現し、アジアで一番の軍事大国・資本主義国になりました。1894年には朝鮮を植民地化するために清国と朝鮮の領土で戦争を起こします。また、1904年に今度は満州と朝鮮の植民地化をめぐってロシアと日露戦争を起こし、満州鉄道の利権などを奪います。さらに、1914年の第一次大戦には日英同盟を理由にドイツに宣戦布告し太平洋、山東省をわが物にします。

国民は若い兵隊を日の丸を振って戦地に送り込み、勝てば提灯行列、花火を打ち上げ、他国の領土を武力で奪ったことを喜んだのです。今では考えられないことですが。国民が一丸となっていたのです。憲法前文の書き出しはこの反省を込めて始まります。「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないように決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し、この憲法を確定する」と。私たちは憲法を守る運動をする場合、この戦前の国民主権が抹殺されて戦争を起こしたことの反省を噛みしめる必要があると思います。

さらに、侵略戦争は1931年に満州の柳条湖で満鉄線路を爆破する謀略事件を起こし、満州に傀儡政権「満州国」をつくります。37年にはやはり謀略事件の盧溝橋事件をおこし中国全土に戦争を広げます。

侵略戦争を正当化するために「自衛のため」という事が使われます。日本軍が柳条湖で鉄道を破壊しそれを中国軍がやったと言いふらし、日本軍は日本人の安全を守るため・自衛のために中国と戦うのだと。盧溝橋事件ではひとりの兵士が集合時間に20分遅れたことで中国兵に殺害されたとし、戦争を開始しました。戦争を起こす側は自衛のためという事を常にまた安易に使います。

1946年の憲法制定の国会答弁で、吉田首相は「近年の戦争は多くは国家防衛権の名において行われたことは顕著な事実であります」と言わざるを得なかったのです。2003年にアメリカがイラク戦争を起こしたときには「大量破壊兵器が隠されている」ことが理由でした。占領してみれば大量破壊兵器はなかった。

ついに日本軍は1941年、フランス植民地のインドシナ半島に軍事基地をつくり、石油などの資源獲得のためフランスに対し領土を要求し、7月24日までに回答がない場合は軍隊を進駐すると最後通告します。フランスは対ドイツ戦で精一杯で承諾せざるを得ませんでした。相手の弱みに付け込み植民地を奪い合うというのが20世紀前半までの帝国主義戦争でした。

森原公敏が強調する「戦争が国境を決定する」ということが当然視されるのが戦前のルールなき国際社会でした。

ここにきてアメリカは8月1日、日本への石油輸出を全面的に停止します。日本は輸入量の3分の2をアメリカに依存していたのです。そして遂に無謀な真珠湾奇襲攻撃を仕掛け、日米戦争・第二次大戦が始まります。

＊森原公敏「領土不拡大」の原則の形成をたどる：前衛2019年7～9号

（次号につづく　伊達郷右衛門）

６６年間の平和を守る闘い

百里に憲法九条の碑を！

「百里の会」は土地を提供し、支援します

１年かけて、具体化してきました

昨年9月の理事会で平和公園に「憲法九条の碑」建立を進めることを決め、ニュースでも紹介しましたが、動きが少し具体的になってきました。平和公園などの所有と維持管理を主な目的とした組織である一般社団法人「百里の会」から建設を提案し、関係者で協議を続けてきました。その結果、百里に関係する団体が呼びかけて、「憲法九条の碑」の建立を目指す方向でまとまってきました。ここでいう関係する団体とは、単独組織で「百里」の名が付いている「百里基地反対同盟」「百里弁護団」「百里平和委員会」「百里の会」と、百里平和公園に石碑と道場を建てている「日本山妙法寺」の5つの団体です。

碑の建立を目指した、これからの流れ

この5団体をよびかけ団体として、まず最初に、百里基地反対運動の共闘組織である「百里基地反対連絡協議会」に、建立を提案します。提案を受け入れて貰えれば、、この5団体は募金を集めるなどで協力することになります。百里基地反対運動の歩みから考えれば、この方式が良いのではないかと思われます。

しかし、「百里基地反対連絡協議会」が中心になって建立することが難しいということであれば、建立するために他の方式を考える必要があります。今の時点では呼びかけ5団体が事務局として、建立のための実行委員会をつくり、百里に今まで関わってきた団体に参加を呼びかけることを考えています。今後、「憲法九条の碑」を建立するためのよりよい方法を模索することになります。

「百里の会」としては

10月28日の理事会で上記のような「九条の碑」建立のための流れを確認しました。土地の提供はもちろん、様々な形で、碑の建立を支援します。

東京・足立区

東京に初の九条の碑

千住九条の会が建立

東京・足立区の「千住九条の会」は、2020年1月に伊藤千尋氏の講演会を開催し、国内外に「九条の碑」が幾つもあることを知り、「東京で初めての九条の碑を千住に創ろう」と決めました。講演会にお招きした皆さんに賛同人になっていただき、同年11月3日に「九条の碑を建立する会」を結成しました。その後、募金活動、宣伝活動を行い翌年7月に記者会見を行い、8社の新聞紙上に掲載され、800人近い個人団体の皆様より激励と募金をお寄せいただき完成することができました。

▲完成を祝う千住九条の会のみなさん。中央の球体がステンレス製の碑で、9条の条文が彫り込んである

6月19日に除幕式と完成のつどいを開催し173人の皆さんが参加しました。「九条の会」事務局長の小森陽一さん、伊藤千尋さんの挨拶、建築家や、土地を提供してくださった医療法人財団健和会理事長、地元代表のスピーチや音楽も交え、「今こそ九条を高く掲げよう」と気持ちを一つにしました。

ロシアによるウクライナ侵略を口実に「軍事には軍事を」が叫ばれるなか、「九条」による平和外交が求められます。多くの皆さんに見に来てもらいたいと思います。（「九条の碑」を建立する会　中田順子）

2022年8月15日
「年金者しんぶん」より